

指導マニュアル 5: 多極化する国際秩序の構築

～「一極支配」の後の「力の空白」をどう管理するか～

1. 指導の核心(コンセプト)

これまでの全テーマの総仕上げです。米中二極でも米一極でもない「多極化世界」において、日本がいかに関「利益・力・価値」の調整者になれるかを論じさせます。

2. 重点指導ポイント

A. 多極化の複雑性

- ・ 解説の急所: 単なるパワーの分散ではなく、各国が「経済は中国、安保はアメリカ、価値観は独自」というバラバラな戦略をとる「多層的な対立」を捉えさせます。

B. 「調整者」としての日本の自画像

- ・ 解説の急所: 日本が欧米の価値観を持ちつつアジアの利益も理解しているという「立ち位置の特殊性」を武器にする論理を教えます。

3. 生徒を伸ばす問いかけ

- ・ 「アメリカも中国も選びたくない国々(グローバル・サウス)に、日本は何を提示できる？」
- ・ 「『踏み絵』を迫る外交は、なぜ多極化世界では危険なのかな？」

4. 添削の際の NG ワード・NG 論理

- ・ ✕「日本はアメリカについていくしかない」→ 主体的な戦略の放棄(調整者の視点欠如)。
- ・ ✕「国連の力を強めれば平和になる」→ 「力の体系」の現実を無視した楽観論。
- ・ ○「多極化に伴う力の真空を、利益の共有による調整の場へ変容させる」という提言を推奨。